

Ⅲ 資格に関すること

1. 教育職員免許状の取得について

本学部学生で、教育職員免許法及び同法施行規則によって定められたところの科目及び単位を修得した者は、次の教育職員免許状を取得することができる。

(1) 免許状の種類及び教科

学 科	免許状の種類	免許教科
環 境 数 理 学 科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	数学 数学
環境デザイン工学科	高等学校教諭一種免許状	理科・工業
環境管理工学科 環境物質工学科	高等学校教諭一種免許状	理科

(2) 基礎資格及び必要最低単位数

免許状の種類	基礎資格	必要最低単位数							介護等体験
		①文部科学省令で定める科目	②教科及び教科の指導法に関する科目		③教育の基礎的理解に関する科目	④道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	⑤教育実践に関する科目	⑥大学が独自に設定する科目	
			教科に関する専門的事項	その他					
中学校教諭一種	学士の学位を有すること	8	20	8以上	11 ^{*2}	10	7	4	必要
高等学校教諭一種	学士の学位を有すること	8	20	4以上	11 ^{*2}	8	5	12	不要

*1 「必要最低単位数（（3）③表を参照）」のうち「教科に関する専門的事項」の科目は、環境理工学部で、その他の科目は教育学部で開講される。

*2 「教育の基礎的理解に関する科目」は、教育職員免許法上の必要最低単位数は中高10単位だが、本学のカリキュラム上11単位の修得が必要となる。その差の1単位は大学が「独自に設定する科目」にあてることができる。

*3 工業の免許状は、（3）③表に定める高等学教諭一種免許状に必要な単位を取得すること。ただし、教科及び教科の指導法に関する科目（各教科の指導法に関する科目に限る。）、「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教育実践に関する科目」の単位数の全部又は一部の単位は当分の間、「教科及び教科の指導法に関する科目（教科に関する専門的事項に関する科目に限る）」の単位の修得をもって、これに替えることができる。

(3) 開設授業科目

① 文部科学省令で定める科目

文部科学省令で定める科目	授業科目	単位数	履修要件	必要最低単位数
日 本 国 憲 法	日本国憲法	2	必修	2
体 育	するスポーツ演習	1	必修	2
	健康・スポーツ科学A	0.5	必修	
	健康・スポーツ科学B	0.5	必修	
外 国 語 コミュニケーション	英語（スピーキング）-1	0.5	必修	2
	英語（スピーキング）-2	0.5	必修	
	英語（リスニング）-1	0.5	必修	
	英語（リスニング）-2	0.5	必修	
情報機器の操作	情報処理入門1（情報機器の操作を含む）	1	必修	2
	情報処理入門2（情報機器の操作を含む）	1	1単位 選択必修	
	情報処理入門3（情報機器の操作を含む）	1		
合 計				8

② 教科に関する専門的事項の科目

■環境数理学科

[中学校教諭一種免許状(数学)], [高等学校教諭一種免許状(数学)]

教科に関する科目	授業科目	履修要件	必要最低 単 位 数
代 数 学	○代数学基礎1, ○代数学基礎2, 代数学要論1, 代数学要論2, 線形代数I, 線形代数II-1, 線形代数II-1演習, 線形代数II-2, 線形代数II-2演習, 線形代数III-1, 線形代数III-2, 離散数学入門1, 離散数学入門2	2 単 位 以 上	20
幾 何 学	○幾何学基礎A, ○幾何学基礎B, 幾何学要論A, 幾何学要論B	2 単 位 以 上	
解 析 学	○応用解析学A, 微分積分I-1, 微分積分I-1演習, 微分積分I-2, 微分積分I-2演習, 微分積分II-1, 微分積分II-1演習, 微分積分II-2, 微分積分II-2演習, ベクトル解析1, ベクトル解析2, 応用解析学B, 計算解析1, 計算解析2, フーリエ解析と偏微分方程式1, フーリエ解析と偏微分方程式2, 力学系とモデリング1, 力学系とモデリング2, 環境アナリシス1, 環境アナリシス2, 環境情報モデル学1, 環境情報モデル学2, 偏微分方程式とその応用1, 偏微分方程式とその応用2, 環境数理生物学1, 環境数理生物学2	2 単 位 以 上	
「確率論, 統計学」	○統計学I, 確率論1, 確率論2, 統計学II, 情報統計学1, 情報統計学2, 数理統計学I-1, 数理統計学I-2, 数理統計学II-1, 数理統計学II-2, 環境統計科学I-1, 環境統計科学I-2, 環境統計科学II-1, 環境統計科学II-2, 計量アナリシス1, 計量アナリシス2, 計算統計学A-1, 計算統計学A-2, 計算統計学B-1, 計算統計学B-2	2 単 位 以 上	
コ ン ピ ュ ー タ	○プログラミング言語A-1, ○プログラミング言語A-2, 計算機リテラシ入門1, 計算機リテラシ入門2, プログラミング言語B-1, プログラミング言語B-2, 数値シミュレーションI-1, 数値シミュレーションI-2, 数値シミュレーションII-1, 数値シミュレーションII-2	2 単 位 以 上	

○印: 免許状取得における必修科目

■環境デザイン工学科

[高等学校教諭一種免許状 (理科)]

教科に関する科目	授業科目	履修要件	必要最低 単位数
物理学	○力学の基礎A, ○力学の基礎B, ○基礎物理数学, エネルギーとエントロピー, 構造力学I及び演習A, 構造力学I及び演習B, 構造材料学A, 構造材料学B, 土質力学I及び演習A, 土質力学I及び演習B, 水理学及び演習A, 水理学及び演習B, 振動学I, 大気環境学, 環境水理学	4 単 位 以 上	20
化学	○現代の化学, 環境と物質, 環境物理化学A, 環境物理化学B, 基礎有機化学 [物質], 有機化学I [物質], 量子化学I [物質], 量子化学II [物質]	2 単 位 以 上	
生物学	○環境生物学 [管理], 水質学A, 水質学B, 環境微生物学, 植生管理学 [管理], 水域環境管理学 [管理]	2 単 位 以 上	
地学	○基礎地球科学, 地球と環境, 気象と水象	2 単 位 以 上	
物理学実験, 化学実験, 生物学実験, 地学実験 (各実験にはコンピュー タ活用を含む)	○材料試験法及び実験	1 単 位	

○印 : 免許状取得における必修科目

[管理] : 環境管理工学科開設科目

[物質] : 環境物質工学科開設科目

[高等学校教諭一種免許状 (工業)]

教科に関する科目	授業科目	履修要件	必要最低 単位数
工業の関係科目	○工業概論, 環境影響評価学, 土質力学II及び演習A, 土質力学II及び演習B, 都市・地域計画学A, 都市・地域計画学B, 測量学, 測量学実習, 情報処理及び演習A, 情報処理及び演習B, 情報処理及び演習C, 廃棄物マネジメント, 地下水工学, 地盤防災工学, 水理設計学及び演習A, 水理設計学及び演習B, 河川環境学, 沿岸環境学, 水道工学, 下水道工学, 計画数理, 交通計画学, 景観論, 環境計画学, 都市解析学, 計画学演習, 構造力学II, 振動学II, 環境解析学I A, 環境解析学I B, 環境解析学II, コンクリート構造設計学I, コンクリート構造設計学II, 土質試験法及び実験, 水理計測法及び実験A, 水理計測法及び実験B	18 単 位 以 上	20
職業指導	○職業指導概説	2 単 位	

○印 : 免許状取得における必修科目

■環境管理工学科

[高等学校教諭一種免許状(理科)]

教科に関する科目	授業科目	履修要件	必要最低 単位数
物 理 学	○物理入門, 力学の基礎A [デザイン], 力学の基礎B [デザイン], エネルギーとエントロピー, 土壌物理学, 流体力学入門, 構造力学I, 土質力学, 土壌の物質移動学, 水理学	2 単 位 以 上	20
化 学	○現代の化学, 物質化学入門, 環境と物質, 基礎物理化学 [物質], 基礎有機化学 [物質], 有機化学I [物質], 量子化学I [物質], 量子化学II [物質]	2 単 位 以 上	
生 物 学	○環境生物学, 環境と生物, 植生管理学, 水生動物学, 水域環境管理学	2 単 位 以 上	
地 学	○基礎地球科学, 気象と水象, 地球と環境, 基礎地形情報学, 土壌科学概論, 流域水文学, 水文環境管理学, 地形情報管理学	2 単 位 以 上	
物理学実験, 化学実験, 生物学実験, 地学実験 (各実験にはコンピュータ活用を含む)	○環境生物学実験, 土壌環境実験, 水利実験, 土質・コンクリート実験, 基礎地形情報学実習, 地形情報管理学実習	1 単 位 以 上	

○印 : 免許状取得における必修科目

[デザイン] : 環境デザイン工学科開設科目

[物質] : 環境物質工学科開設科目

■環境物質工学科

[高等学校教諭一種免許状(理科)]

教科に関する科目	授業科目	履修要件	必要最低 単位数
物 理 学	○基礎物理数学, エネルギーとエントロピー	2 単 位 以 上	20
化 学	○基礎物理化学, 物質化学入門, 環境と物質, 熱力学I, 気体分子運動論, 熱力学II, 熱力学III, 混合と反応, 反応速度論, 電気化学I, 相平衡論, 量子化学I, 量子化学II, 無機化学I, 無機化学II, 基礎無機化学, 無機化学III, 基礎有機化学, 有機化学I, 有機化学II, 有機化学III, 高分子化学I, 高分子化学II, 基礎化学工学, 化学工学I, 化学工学II, 化学工学III, 反応工学I, 反応工学II, 環境分析化学I, 環境分析化学II, 機器分析I, 機器分析II, システム設計学I, システム設計学II, 無機結晶化学, 無機材料化学, 無機構造化学, セラミックス物性化学, セラミックス材料科学, ガラス材料科学, 有機化学IV, 有機化学V, 環境有機化学I, 環境有機化学II, 高分子溶液論, 高分子固体科学, 分離工学I, 分離工学II, 環境触媒化学I, 環境触媒化学II, 化学プロセス工学I, 化学プロセス工学II	2 単 位 以 上	
生 物 学	○環境と生物, 水質学A [デザイン], 水質学B [デザイン], 環境生物学 [管理], 植生管理学[管理], 水域環境管理学[管理]	2 単 位 以 上	
地 学	○基礎地球科学, 気象と水象, 地球と環境	2 単 位 以 上	
物理学実験, 化学実験, 生物学実験, 地学実験 (各実験にはコンピュータ活用を含む)	○教養物理学実験 [教養], 環境分析化学実験, 環境化学実験および演習A, 環境化学実験および演習B, 環境化学実験および演習C	1 単 位 以 上	

○印 : 免許状取得における必修科目

[デザイン] : 環境デザイン工学科開設科目

[管理] : 環境管理工学科開設科目

[教養] : 教養教育科目

③ 必要最低単位数 (① 文部科学省令で定める科目を除く。)

科 目	各科目に含めることが必要な事項	必要最低単位数				教育実習履修資格単位数				
		中学校 教諭一種 免許状		高等学校 教諭一種 免許状		必修	選択 必修			
② 教科及び教科の指導法に関する科目	イ 教科に関する専門的事項	20	28	20	24	2				
	ロ 各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)	8 以上		4 以上						
	ハ 複合格目(教科内容構成)									
③ 教育の基礎的理解に関する科目	イ 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	11		11		2		4		
	ロ 教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。)									
	ハ 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 (学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)									
	ニ 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程									
	ホ 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒 に対する理解								1 以上	1 以上
	ヘ 教育課程の意義及び編成の方法 (カリキュラム・マネジメントを含む。)									
④ 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	イ 道徳の理論及び指導法	2	10		8		2			
	ロ 総合的な学習の時間の指導法									
	ハ 特別活動の指導法									
	ニ 教育の方法及び技術 (情報機器及び教材の活用を含む。)									
	ホ 生徒指導の理論及び方法									
	ヘ 教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法									
	ト 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法									
⑤ 教育実践に関する科目	イ 教育実習	5	7	3	5					
	ロ 教職実践演習	2		2						
⑥ 大学が独自に設定する科目		4		12						
合 計		60		60		6	6	4		
						16				

(注意事項)

- ・「教科に関する専門的事項」を除いた科目は、教育学部開講科目である。授業科目等詳細は掲示により周知するので注意すること。
- ・「各教科の指導法」は、取得しようとする免許教科ごとに修得すること。取得しようとする免許教科以外の指導法は、取得しようとする免許教科の単位として取り扱うことができないので注意すること。
- ・教育の基礎的理解に関する科目について、教育職員免許法上の必要最低単位数は中高10単位だが、本学のカリキュラム上11単位の修得が必要となる。その差の1単位は「大学が独自に設定する科目」にあてることができる。
- ・中学校教諭一種免許状と高等学校教諭一種免許状の両方を取得しようとする場合は以下の点に注意すること。
 - ① 高等学校教諭一種免許状では、「道徳の理論及び指導法」の単位を「大学が独自に設定する科目」とすることができる。
 - ② 「教育実習」5単位のうち、2単位分(中学校教諭一種免許状5単位と高等学校教諭一種免許状3単位の差)を高等学校教諭一種免許状の「大学が独自に設定する科目」に充てることができる。

(4) 教育実習

- ① 教育実習は、4年次(卒業論文履修資格取得者)の4～6月に、原則として各自の出身校で履修すること。
- ② 教育実習の内諾手続きについては、3年次の4～5月に掲示するので注意すること。
- ③ 事情により教育実習を辞退する場合は、速やかに教務担当窓口へ届け出るとともに、出身校へ必ず連絡すること。
- ④ 教育実習を履修するためには、3年次終了時まで上記の表中に掲げる教育実習履修資格単位数(合計16単位以上)を修得すること。
- ⑤ 教育実習に関する詳細については、その都度掲示するので注意すること。

(5) 介護等体験

中学校教諭一種免許状を取得する場合、社会福祉施設等において、7日間の「介護等体験」が義務づけられているので必ず参加すること。詳細については、掲示により周知するので注意すること。

(6) 卒業要件単位に含まれない科目

教育職員免許状取得に関する科目のうち下記科目については、卒業要件単位に含まれないので注意すること。

- ① 「教科に関する専門的事項」以外の科目
- ② 「教科に関する専門的事項」のうち「工業概論」及び「職業指導概説」